2022年度　聖隷こども園夢舞台　自己評価公表

　教育・保育理念

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法・児童憲章にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の保育・教育を目指します。

* 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
* 一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
* 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
* 在園・地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てができるように支援する。

施設理念

「隣人を自分のように愛しなさい」(マタイによる福音書22:39)

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法、児童憲章、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づいて、心身ともに豊かな子どもを育てる。

|  |  |
| --- | --- |
| 評価項目別の達成および課題状況項目 | 自己評価・課題 |
| 第１章　総則 | 「幼保連携型認定こども園教育･保育要領」を見直す機会を設定していくことで、教育・保育要領の理解を深めていく。  ”人間形成の基礎“を培う時期大切な役割を担っていることを意識する |
| 第２章  １．子どもの発達 | 子どもの興味関心に合わせ主体的に選択できるあそびを提供するようにしている。子どもひとりひとりの成長や発達を意識し、関わるように心がけているが、自分の保育を振り返るよい機会となった。 |
| 第３章　ねらい及び内容  　　保育内容「健康」  　　　　　　　　「人間関係」  　　　　　　　　「環境」  　　　　　　　　「言葉」  　　　　　　　　「表現」 | 乳児クラスでは、子どもたちの危険を予測する力や状況を理解する力が幼いので、職員同士が冷静かつ連携することが大切である。  　世代間交流については、高齢者施設や小学校の交流などコロナ対策を講じつつも実現することが難しかった。  ２０２２年度も中学生のトライやるウィークの受け入れができたので、今後も積極的に受け入れ地域に貢献していきたい。  子どもが「なぜ？」と思ったことを一緒に考えたり調べたり、子どもの目線に立った保育を展開していく。  語彙力の発達が大きく言葉を使って気持ちを伝える喜びを感じる時期であり、子どもが発する言葉に耳を傾け、ゆったりと関わるように心がけている。 |
| 第4章　低年齢児保育実施上の配慮事項 | 愛着関係が築けるように、ゆったりとした雰囲気の中でひとり一人と向き合うことができるように気を付けている。すぐに対応が難しいこともあるが、「抱っこしてほしかったんだね」と子どもの気持ちを代弁し気持ちを子どもの方向に向けることを意識している。  子どもの様子がわかり安心できるように連絡帳や送迎時に詳しく伝えている。 |
| 第5章　指導計画作成に当たって配慮すべき  事項 | 教育課程に基づいて長期計画、短期計画を立てる点において、職員間の話し合いの時間を確保するなど見直すことが多い。 |
| 第6章　研修と自己評価 | スキル向上や視野を広げるため、積極的に研修に参加したい。  研修参加後の伝達と共有については、職員会議の場で共有できるようにしている。  　コロナ禍の中、研修に参加する機会は減っているが、専門書読んだり研究活動に参加する機会は１年を通してできている。  自己評価の機会は持てているが、他の職員に発信するまでにはいたってない。積極的に意見交換できる場を提供していきたい。 |
| 第7章　子育て支援 | 保護者との情報交換は、自分から発信し信頼関係を築くことができるように心がける。  送迎の際、親子の様子で家の状況を察したり、言葉を交わしたり連絡帳等での情報交換は、大切にしている。 |
| 総評 | 今年度は園庭開放や交流事業等、コロナウイルス感染症対策に注意しながらできる限り行うことができた。園庭開放も一年を通して行うことができた。  行事については、地域の感染状況を見ながら、学年ごとに実施し、こどもたちの成長を保護者と共有することができた。  幼児クラスは保育参加を2か月かけて行い乳児クラスは、懇談会を少人数制で実施した。 |